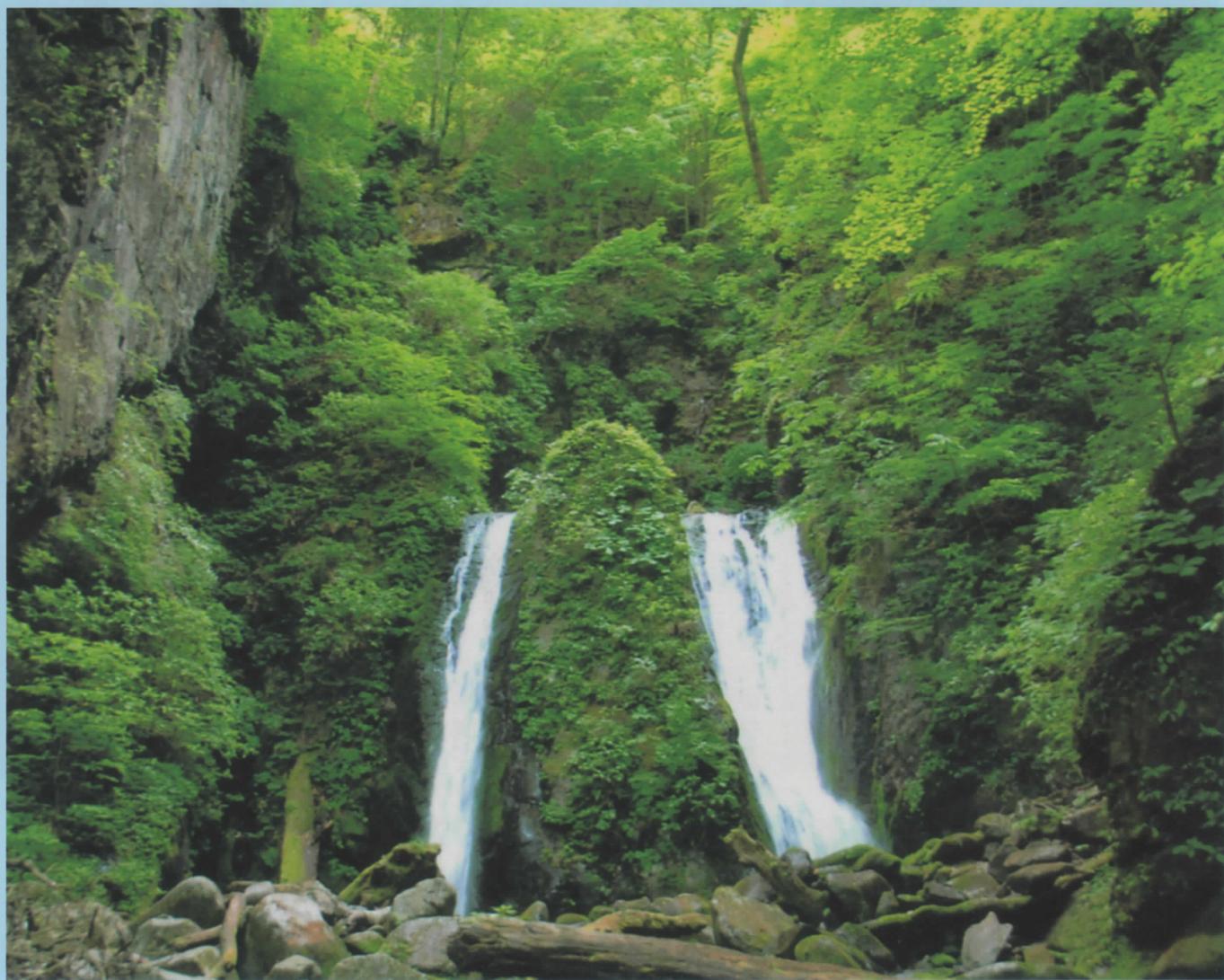


源流の四季

第34号(2009年7月) 夏
 Summer

発行所／多摩川源流研究所 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4383
TEL 0428(87)7055 FAX 0428(87)7057
<http://www.tamagawagenryu.net>
E-mail:genryu@ec3.technowave.ne.jp
発行責任者／中村文明
協力／多摩川源流協議会(甲州市・奥多摩町・丹波山村・小菅村)
多摩川源流観察会
印刷／(株)サンニチ印刷



新緑の雄滝(山梨県小菅村 撮影 中村文明)

Contents 目次

源流元気再生プロジェクト運営委員会	2
源流大学が苗を育て2年目に挑戦	4
源流から河口まで国の直轄区間へ運動開始	5
みなかみ町、川上村、根羽村が新たに加盟	5
源流研究所運営委員会開催	5
第31回多摩川流域セミナーを開催	6
源流から河口までの市民連携・流域連携を図る	6
第10回全国源流シンポジウム案内	7
「最初の一滴」に会いに行きませんか	7
日本エコミュージアム研究会案内	8

源流元氣再生プロジェクト運営委員会

下流域との人的資金的な連携の
強固な枠組み構築へ

小菅村・源流研究所は、継続が確定した源流元気再生プロジェクト運営委

員会を、六月十二日、小菅村役場二階会議室で開催。下流域との人的資金的な連携の強固な連携の枠組みを構築し持続可能な小菅村の発展の基盤を確立する方針を確認して、アドバイザーから新しい視点に基づくコメントをいただき、「どこよりも元気な循環型の小菅村を創造する」との目標に向かって活動することを確認した。

河川事務所の山口充弘副所長がそれぞれ挨拶した。降矢村長は「本日は、

アドバイザーの高橋裕先生、宮林茂幸先生、渋沢寿一先生、鍛山英次先生、山道省三先生、神谷博先生、伊藤叡先生には大変お忙しい中、ご参加いただき心より感謝を申し上げます。昨年の元気再生の取組みが評価され、今年度の継続が認められました。本日の運営委員会が、小菅村の今後の進むべき道を指示し示す有意義な会議になりますよう期待します」と参加者を激励しました。


源流地域を直轄に
編入したい

運営委員会の小泉守会長は、「東大北海道演習林に勤務したドロガメさん」の本を読んだら面白いことが書かれていた。訪問先の森の感想を聞かれていた。

平成21年度源流元気再生PJ運営委員会(6月11日)

平成21年度源流元気再生PJ運営委員会(6月11日)



プロジェクト運営委員会
小泉 守 会長



国土交通省 NPO法人
京浜河川事務所 樹木・環境ネットワー
山口 充弘 副所長 渋沢 寿一 理事長



各研究室の室長が報告

境ネットワークの渋沢寿一理事長が「源流を活かした村づくりへの提言」を行つた。

五十年後の小菅村を考えよう

渋沢理事長は、「ドロガメ先生の話があつたが、どの木を伐つてどの木を残すのかを判断する際、いつも百年後

事業の課題」の報告に立った佐藤英敏水源流振興課長は、「今年度の大目標が下流域との人的資金的な連携の強化的な枠組みの整備にある。この運営委員会を流域の多様なセクターが参加津萬する大きな原流プラットホームに育

②「源流資源の循環・活用・交流プロジェクト」

③「源流・森林再生プロジェクト」
④「源流ライセンス・源流ミュージア

の四つが柱であり、この課題を実現するところに『木づかい研究室』(産業開発部)

るためには「木」かい研究室」「産業開発研究室」「健康づくり研究室」「森林再生研究室」「文化再生研究室」

を設けたい。それぞれ別々に活動するのではなく、お互いに連携を取り合

い総合的な活動を展開したい」と今年度の課題と運営体制を報告した。

提言と課題報告を受けて、「木」が「い研究室」（古屋金男室長）、「源流産業開発研究室」（亀井准次室長）、「建

源流から河口まで国の直轄区間へ運動開始

源流協議会が総会

甲州市(田邊篤市長)、奥多摩町(河村文夫町長)、丹波山村(岡部政幸村長)、小菅村(降矢英昭村長)の四市町村で構成する多摩川源流協議会の平成二十一年度総会が、五月二十七日、甲州市勝沼防災センターで開催された。当日は、甲州市の田邊市長、奥多摩町の加藤企画財政課長、丹波山村の坂本副村長、小菅村の降矢村長が出席した。

浜川河川事務所奥多摩出張所の設置や上下流連携強化に取り組みた」と挨拶した。続いて、事務局を担当する源流研究所の中村所長が、大菩薩から三窪高原にかけてシカの深刻な食害が拡大していること、特に三窪高原のレンゲツツジは壊滅的な被害を受けており、大菩薩峠付近の残

された僅かな群生地の保護が急務であり、地元大菩薩観光協会と連携してシカ柵設置に取り組む方針と、さらに一級河川である多摩川の国の直轄区間の見直しについて説明し、源流から河口まで直接国が管理するよう粘り強く国へ働きかけていく方針を提案し総会で承認された。

みなかみ町、川上村、根羽村が新たに加盟

全国源流の郷協議会は、五月二十一

参加できなかつた。

A group of men in suits are gathered around a long wooden conference table in a bright meeting room. One man stands in the center, facing the others who are seated and looking down at papers. A green exit sign is visible above a glass door in the background.

多摩川源流協議会平成21年度総会(5月27日)

出席し挨拶した。今年度、利根川のみなかみ町、奈良県の川上村、長野県の根羽村が新たに加入し、念願の二桁である十二の自治体を会員に持つ全国源流の郷協議会へ成長した。当日は、五ヶ瀬川源流の五ヶ瀬町、旭川源流の新庄村、熊野川源流の天川村、紀ノ川吉野川源流の川上村、木曽川源流の木祖村、千曲川源流の川上村、相模川源流の道志村、多摩川源流の小菅村、利根川源流のみなかみ町の代表が出席した。耳川源流の椎葉村は矢作川源流の根羽村は所用のため

「源流再生政策委員会」開催による国への政策提言、大橋式路網を核とする森林作業道の研究と普及、NPO法人全国源流ネットワークとの協働による全国源流シンポジウムの開催など、国民に対して源流の重要性をアピールし、源流への理解と協力を広げてきた。今年度は、源流再生に関する政策を実現するために「源流再生国政懇談会」を設置すること、また、第十回全国源流シンポジウムを成功させること、森林の管理と経

はじめに降矢英昭村長が「運営委員の皆様の日頃からのご尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。源流域研究所は、小菅村において源流を活かした村づくりの中核を担い、重要な役割を果たしてきました。今後とも皆様方のご協力とご支援をお願いします」と挨拶、引き続き宮林茂幸運営委員長が「小菅村と源流研究所が協働で全国のモデルになる源流再生事業」

源流研究所運営委員会開催

多摩川源流研究所の平成二十一年度運営委員会が、四月十一日、小菅村役場で開催され、平成二十一年度事業計画や予算を審議し決定した。今年度は源流元気再生事業や大橋プロジェクトなどの課題に取り組むことを確認した。

業を作り上げてきている。源流元気な再生プロジェクトでも大きな成果を上げてきた」と挨拶した。

運営委員会では、佐藤英敏事務局長が平成二十年度の事業報告と決算報告を、中村文明所長が平成二十年度事業計画と予算をそれぞれ報告した。

今年度の重点課題

- ①源流元氣再生プロジェクトについて
 - ②情報の発信、「源流の四季」の發行について
 - ③源流体験を中心とする上下流交流について
 - ④源流大学・エコミュージアム全国大会への協力について
 - ⑤源流ネットワークの形成について



全国源流の郷協議会が総会を開催

会長 降矢英昭小菅村長(山梨)
副会長 飯千辰巳五ヶ瀬町長(宮崎)
副会長 栗屋徳也木祖村長(長野)

自覚し、この源流の郷ネットワークの輪を今後とも拡大していく」と決意している」と挨拶した。

事務局から平成二十年度の事業報告、決算報告、さらに平成二十年度の事業計画、同収支予算が提案され承認された。

全国源流の郷協議会の役員は次

営の基盤である森林作業道の研究と普及を進めていくことなどが課題

である。源流は、流域の要であり、国土保全・環境保全の最前線である。

第三十五回多摩川流域セミナーを開催

野川の湧水・崖線など魅力を堪能



第31回多摩川流域セミナー(6月20日)

多摩川流域懇談会(高橋裕会長)の主催による第三十一回多摩川流域セミナーが、六月二十日多摩川の支流である野川で開催された。今年度は、流域懇談会の目標として多摩川の源流から河口までの市民が連携を深め、流域連携、市民連携を深める中で流域の自然環境を保全する活動を盛り上げていくこと

流域の支川の中でも野川は昔から市民による活動が盛んな川で、自然再生活動や、湧水の保全、水辺の整備など野川に集う市民の活動について現地で交流した。参加者は、武藏野公園や野川公園の空間と国

分寺崖線のあちこちから湧き出る湧水や螢

川の整備など野川の魅力を存分に堪能した。

当日は、午前九時三

十分に武藏小金井駅に集合し、東京都や地元の案内人のガイドで丸山橋から、武藏野公園、野川公園沿いに点在する湧水や自然再生に取り組む調整池、萤川などを巡り、午後からは、ボイスカウト

のコーディネーターで行なわれた。

日本連盟会館において

参加者による「フリー

トワーク(TBネット)は平成十六年の結成以来、様々な活動を展開してきたが、今後どのように会を運営

したらいか、今節目の時期に来て

いる。この会をどのように発展させたいか大いに議論して欲しい」と挨拶した。総会では、TBネットの設立の原点に立ち戻り市民の連携を

強め、団体の連携・各拠点訪問と情

■ 参加者の感想

先ず企画してご案内下さったスタッフの皆さんに感謝。東京の中によくぞこれだけ保存のよい自然が残されていた、というのが第一の感想です。野川流域の市民の皆さんのが熱心な働きかけと息の長い支援がこの様な素晴らしい宝ものを残させたと思

います。今日は、実りのある一日を有り難うございました。



現地で案内する堀井さん

市民連携・流域連携を図る

多摩川流域ネットワークが総会

源流から河口までの市民が参加・連携する多摩川流域ネットワークの

総会が、五月十八日、川崎市多摩区の一ヶ領せらぎ館で開催され、平成二十年度の事業報告・収支報告、平成二十一年度の事業計画・予算をそれぞれ確認した。

長島保代表は「多摩川流域ネットワーク(TBネット)は平成十六年の

結成以来、様々な活動を展開してきたが、今後どのように会を運営

したらいか、今節目の時期に来て

いる。この会をどのように発展させたいか大いに議論して欲しい」と

挨拶した。総会では、TBネットの設立の原点に立ち戻り市民の連携を

強め、団体の連携・各拠点訪問と情

報交換・交流を推進することになつた。さらにTBネットが流域連携の大師河原千渴館から大田区のりんご園、佐藤源流振興課長、多摩川源流研究所の中村所長らの案内で、鶴峠の大橋式林内路網づくり、白沢地区の多摩川源流大学、小菅小学校の木づかい保健室プロジェクトなどを視察し、午後三時からは、降矢小菅村長、小泉元気再生運営委員会会長らと意見交換を行い、源流再生プロジェクトの取り組み内容を詳しく聴取、国の元気再生事業を源流再生に役立てて欲しいと激励した。

総会で新しく選出された役員は拠点の交流・連携を積極的に図り、情報のネットワーク化や情報の共有化をすすめることを確認した。

総会で新しく選出された役員は次の通り

拠点の交流・連携を積極的に図り、情報のネットワーク化や情報の共有化をすすめることを確認した。

この会をどのように発展させたいか大いに議論して欲しい」と挨拶した。総会では、TBネットの設立の原点に立ち戻り市民の連携を

財務省川嶋主計官 小菅村現地視察



財務省川嶋主計官一行の源流大学視察

財務省の川嶋主計官、内閣府の石塚参事官など八名は、五月二十五日、地方の元気再生事業の執行調査で、首都圏において自治体が主体的に地域作りに取り組んでいる事例として、小菅村の取り組みを視察するため現地を訪れた。

川嶋主計官一行は、小菅村の佐藤源流振興課長、多摩川源流研究所の中村所長らの案内で、鶴峠の大橋式林内路網づくり、白沢地区の多摩川源流大学、小菅小学校の木づかい保健室プロジェクトなどを視察し、午後三時からは、降矢小菅村長、小泉元気再生運営委員会会長らと意見交換を行い、源流再生プロジェクトの取り組み内容を詳しく聴取、国の元気再生事業を源流再生に役立てて欲しいと激励した。

第10回全国源流シンポジウム(案)

「自然に抱かれ、そして感謝しながら生きる」

● 開催の趣旨 ●

天川村は山岳信仰の聖地として、今なお厳しい修行が行われており、その大峯の峰々からは、清冽な水が湧き出ています。水を育む環境と培われてきた歴史と文化を再認識し、源流地域がもつ資源とその価値を広く全国に発信し、「自然に抱かれ、そして感謝しながら生きる」ことの大切さを次の世代に伝えていきたいと思います。

日 時

平成21年9月12日(土)
～13日(日)

場 所：奈良県・熊野川最源流「天川村」
会 場：天川小学校
交流会「天川村山村開発センター」



奈良県天川村

第一日目：12日(土曜日) 9時30分より

- ◆ 9:30 地球交響曲
「ガイアシンフォニー」上映
- ◆ 13:00 シンポジウム開会
記念講演(龍村 仁氏・映画監督)
基調提言 パネルディスカッション
天川宣言 次期開催地挨拶
全国源流の集い

第二日目：13日(日曜日) エクスカーション

- ◆ 大峯山一日修行(男性) ◆ 洞川温泉郷名所めぐり
- ◆ みたらし・川迫川渓谷探訪 ◆ みたらし渓谷と天河
大弁財天社 ◆ 熊野川最源流探訪ツアー

主 催: 第10回全国源流シンポジウム実行委員会

事務局 天川村役場 地域政策課内

〒638-0392 奈良県吉野郡天川村沢谷60番地

電話 0747-63-0321 フax 0747-63-0329

共 催: 天川村/全国源流の郷協議会/NPO法人全国源流ネットワーク

後 援: 国土交通省/環境省/林野庁/奈良県(予定)

「最初の一滴」

に会いに行きませんか

一多摩川源流・水干探訪の旅

多摩川は、山梨県甲州市塩山に所在する笠取山の南懷の水干に最初の一滴を記します。大きな花崗岩からしたたり落ちた最初の一滴は、一旦地下水となり、約60メートル下った大きな岩の下から湧水となって流れ始め、水干沢、一ノ瀬川本谷、一ノ瀬川、丹波川、多摩川と名前を変えながら、138キロを旅して東京湾に注ぎ込みます。黄葉に彩られた秋の水干と一緒に歩きませんか。



東京大学の沖研究室の水幹探訪(6月14日)

日 時 10月31日(土) 午前8時30分 奥多摩駅集合

場 所 山梨県甲州市塩山一ノ瀬高橋 水干

主 催 山梨県小菅村・多摩川源流研究所

申込先 ☎0428-87-0111 小菅村源流振興課

費 用 4,800円(バス代・弁当代・ガイド代・保険代 含む)

定 員 20名(源流ファンクラブ会員優先・先着順)

服 装 雨具、水、登山用靴、寒さ対策

日本エコミュージアム研究会 第15回 全国大会 inこすげ2009

「源流の村=小菅村=日本村」 ～生物文化多様性を紡ぐ～

「エコミュージアム」とは、地域の伝統的な生活や文化そのものを、体験していく
だく博物館のことです。エクスカーションでは、小菅村の魅力を満喫できるコース
を6つ用意しました。



2009年9月5日(SAT)～6日(SUN)

開催場所 山梨県小菅村・中央公民館を拠点として村内

開催主体 日本エコミュージアム研究会・小菅村全国大会
実行委員会

共催: ミューゼス研究会、小菅村の諸団体、(財)森とむらの会／植物と人々の博物館、NPO自然文化誌研究会、NPO秩父まるごと博物館など
(予定)

後援: 小菅村、省庁、多摩川流域自治体、多摩川流域環境市民団体、
多摩川流域企業など(予定)



【日程予定】

■ 9月5日(土)

- 12:00 受付開始 小菅村中央公民館
13:00～16:30 村内エクスカーション
①源流の景観と食体験コース
②民話七不思議コース
③森の癒し(森でほうれる)コース
④雑穀オコジュウコース
⑤多摩川源流エコツアーコース
⑥伝統工芸(竹細工)体験コース

- 16:30 小菅の湯、物産館
18:00 交流会開始
小菅村の郷土食をお楽しみください
20:30 中締め、希望者は夜なべ談義
小永田地区神代神楽見学

※参加費や交通手段に関しては、日本エコミュージアム研究会ホームページまたは下記の申込み先までお問い合わせください。

■ 9月6日(日)

- 6:15 ①野鳥観察、②河畔遊歩道散策
7:30 朝食、各宿泊施設で
9:00 ポスター・セッション 中央公民館
9:30 ワークショップ「源流の村=小菅村=日本村」
山村の生活、生き物、森林や水、素のままの美しい暮らしの
在り様について話し合いを深めます。
12:00 閉会・昼食「謹製・こすげ弁当!!!」

<前後・オプション企画>

■ 9月4日(金)午後 前泊する方は小永田神楽の花つくり体験など

■ 9月6日(日)午後

オプション企画のエクスカーションはバスなどを使用しますので、事前申
し込みにおいて希望者が多い場合にのみ実施します。

- ①奥多摩むかしみち散策(奥多摩駅解散)
②東京江戸博物館たてもの園(武蔵小金井駅解散)
③秩父まるごと博物館(秩父駅解散)

詳細に関しては、日本エコミュージアム研究会 (<http://www.jecoms.jp>) のホームページに順次公表していくので、そちらをご覧ください。

申込み・問い合わせ先

◆植物と人々の博物館(黒澤)電話:0428-87-0165

◆大会実行委員会事務局(亀井)電話:0428-87-0404 FAX: 0428-87-0741

Email npo-inch@wine.plala.or.jp

この事業は、内閣府の「地方元気再生事業」の支援を受けています。